

テーマ：貿易統計（2012年3月）
発表日：2012年4月19日（木）
～輸出は下げ止まり。1-3月期の外需寄与度はプラスに～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL：03-5221-4528

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量							
				輸出金額		輸入金額		アメリカ		EU	アジア		アメリカ		EU	アジア	
				前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
11	1月	▲ 4972	2974	1.4	12.5	2.8	14.4	13.4	▲ 1.8	11.2	5.9	7.0	13.6				
	2月	6370	3956	9.0	10.3	9.8	3.4	21.5	11.0	4.9	10.8	10.2	4.0				
	3月	1709	▲ 1006	▲ 2.4	12.2	▲ 3.1	0.5	7.7	▲ 1.3	5.5	1.6	▲ 4.8	14.4				
	4月	▲ 4777	▲ 6785	▲ 12.4	9.2	▲ 11.5	▲ 21.5	▲ 8.9	▲ 6.4	1.3	7.5	19.1	1.7				
	5月	▲ 8607	▲ 5512	▲ 10.3	12.4	▲ 10.5	▲ 10.1	▲ 12.5	▲ 7.9	5.5	13.6	5.5	6.1				
	6月	645	▲ 1297	▲ 1.6	9.9	▲ 2.6	▲ 2.5	1.9	▲ 2.5	1.7	▲ 1.3	▲ 0.8	5.1				
	7月	697	▲ 1117	▲ 3.3	9.9	▲ 5.2	▲ 5.6	1.8	▲ 4.7	▲ 2.6	▲ 4.3	2.7	0.5				
	8月	▲ 7775	▲ 2458	2.8	19.2	0.9	6.2	4.2	▲ 1.8	6.1	12.3	9.9	8.6				
	9月	2888	▲ 430	2.3	12.2	1.4	▲ 0.4	3.2	▲ 2.7	1.0	3.7	10.4	0.6				
	10月	▲ 2830	▲ 4356	▲ 3.8	17.9	▲ 4.0	▲ 4.7	▲ 2.0	▲ 7.2	6.0	14.3	9.6	5.0				
	11月	▲ 6912	▲ 5549	▲ 4.5	11.5	▲ 4.4	▲ 3.6	▲ 11.2	▲ 9.5	▲ 1.0	▲ 3.6	22.9	▲ 5.5				
	12月	▲ 2083	▲ 4957	▲ 8.0	8.2	▲ 6.6	2.3	▲ 13.1	▲ 11.1	▲ 0.7	6.0	4.3	▲ 2.5				
12	1月	▲ 14815	▲ 4992	▲ 9.2	9.6	▲ 10.1	0.1	▲ 9.8	▲ 14.9	3.1	7.8	4.2	2.9				
	2月	294	▲ 3214	▲ 2.7	9.2	▲ 3.8	14.8	▲ 11.4	▲ 8.0	3.2	5.1	11.1	▲ 0.4				
	3月	▲ 826	▲ 6213	5.9	10.5	3.8	20.3	▲ 10.4	▲ 0.6	3.1	14.3	14.7	▲ 1.4				

(出所)財務省「貿易統計」

○ 1-3月期の外需寄与度はプラス転化が予想される

財務省より発表された2012年3月の貿易統計では、輸出金額が前年比+5.9%、輸入金額が同+10.5%、貿易収支は▲826億円の赤字となった。輸出、輸入とも市場の事前予想（輸出：+0.3%、輸入：+6.5%）を上回ったが、輸出の上振れ度合いの方が大きかったため、貿易赤字額は事前予想よりも小さくなった。

物価変動の影響を除いた実質輸出（季節調整値）では前月比▲1.7%となった（実質化と季節調整は筆者）。前月比マイナスではあるが、2月分がアジアの旧正月要因により押し上げられていた反動が出ることは元々予想されていた。マイナス幅は筆者の想定よりも小さく、むしろ強めの結果と言って良いだろう。実際、1-3月期で均してみると前期比+1.3%となり、10-12月期の前期比▲3.5%からやや持ち直す形になっている。地域別では、米国向けが堅調さを保っていることに加え、タイ洪水からのリバウンドによりASEAN向けが強い。財別では、輸送用機器、一般機械、電気機械など幅広い財で増加がみられた。①中国向け、EU向け輸出が依然冴えない、②1-3月期の輸出はタイ洪水からのリバウンドにより押し上げられている、という面もあるため、輸出が明確に増加基調に転じたとはまでは言えないが、昨年秋以降弱含んでいた輸出が、足元で下げ止まっていることは確かだろう。

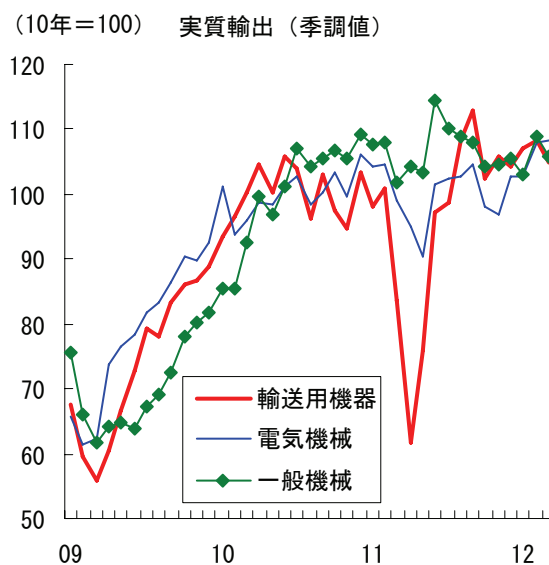
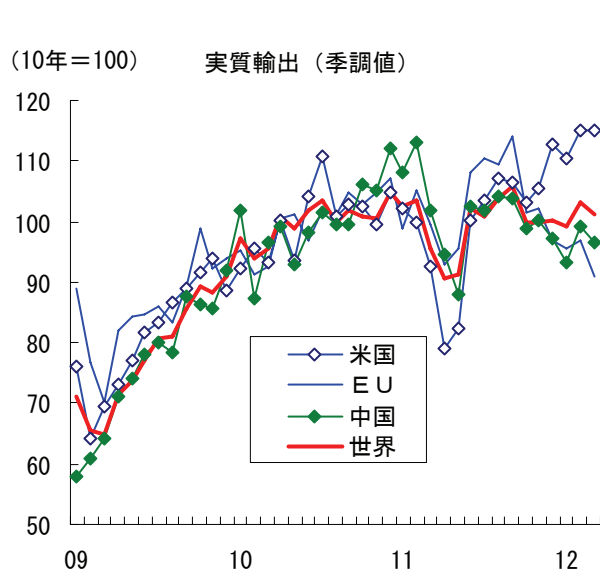
貿易統計の結果を踏まえると、2012年1-3月期のGDPベース実質輸出は前期比で+2%台半ば程度になると予想される。10-12月期の落ち込み分（前期比▲3.1%）を取り戻すことはできておらず、力強さには依然欠けるものの、2四半期ぶりに増加する見込みだ。実質輸入については前期比+1%台後半程度になると見込まれ、11四半期連続の増加になると予想される。輸出の伸びが輸入を上回る結果、外需寄与度はプラスに転じるだろう（10-12月期は前期比年率で2.6%ポイントのマイナス寄与だった）。こうした外需寄与度のプラス転化に加え、個人消費や公共投資で高い伸びが見込まれることから、1-3月期のGDPはかなりの高成長になることが予想される。

○ 米国向けとASEAN向けが好調

実質輸出を地域別にみると、米国向けの底堅さが目立つ。米国向けは2月に前月比+4.2%増加した後、3月も同+0.1%と高水準を保った。1-3月期では前期比+6.0%の高い伸びだ。全般的に好調だが、特に自動車販売の好調を受けて輸送用機械の増加が著しい。また、アジア向け（中国含む）は前月比▲1.6%（2月：+4.8%）と減少したが、1-3月期では+1.3%（10-12月期：▲3.5%）とプラスに転じた。特にASEAN向けが好調で、1-3月期は前期比+7.9%も増加した。タイの洪水による落ち込みからのリバウンドに加え、内需が好調に推移していることが押し上げ要因になっているとみられる。一方、中国向けは1-3月期で前期比▲2.2%（10-12月期：▲4.5%）、NIES向けが同▲1.4%（10-12月期：▲4.4%）であり、引き続き冴えない。ただし、月次で見ると下げ止まりつつあるようにも見え、今後は次第に改善に向けた動きが出てくる可能性が高いだろう。また、EU向けは前月比▲5.9%（2月：+1.2%）、1-3月期▲5.6%（10-12月期：▲10.0%）と大幅な落ち込みが続いている。先行きも、財政緊縮による下押しなどが予想されることから、EU向け輸出には期待できない。

○ 輸入増により貿易収支（季節調整値）は赤字幅拡大

3月の貿易収支は▲826億円の赤字だった。季節調整値では▲6213億円となり、2月の▲3214億円から赤字が大幅に拡大した。輸入金額が季節調整済み前月比で+6.3%と大幅に増加したことの影響が大きい。3月は資源価格上昇の影響が出たことや円安による輸入価格押し上げなどが効いており、非常に高い伸びとなった。先行きも、燃料輸入を中心として輸入の高止まりが予想されるため、貿易収支は当面赤字が続くとみられる。



（出所）財務省「貿易統計」

（注）実質化と季節調整は第一生命経済研究所